平成 22 年 9 月 1 日
第 40 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

農家の大事「畔草刈り」


流れる汗を拭いながらの草刈り作業

8月の初めから一気に伸び始めた稲は、穂が実り、小さな白い花をつけました。穂は日増しに重くなり、お辞儀をするようになってきました。

強い日差しを避けて、朝夕に畔の草刈り作業が行われています。農家にとっては最大の重労働です。

畔や法面の除草対策についていろいろな提案が行われていますが、決定打が見つからない状態です。当分は、暑さと戦うしか無いようです。

八方原の環境を守る会では、こうした作業に日当を支払っています。

椹野川沿いを清掃ボランティア


沿線を歩いて、きれいに

7月24日、例年行われる清掃活動椹野川クリーンキャンペーンが行われました。

これは椹野川を流域の地域がそれぞれの地域の川沿いをきれいにするものです。

班長さんを中心に10人が作業に参加しました。

「ニッポンの農力」という連載コラムが日本経済新聞8月22日から26日まで掲載されました。

農業生産の輸出大国が自国の生産状況や、人口増加などで、食料輸出を禁止したり、反対に輸入国に変わってしまう、激動する世界の穀物市場をリポートしていました。

食料だけでなく生産に欠かせない肥料。肥料の原料となるリン鉱石についても奪い合いが始まっていると言います。輸入に頼っている日本の食料事情、農業生産がいかに危ういものか、痛烈に指摘していました。

特に中国の動向は世界の穀物事情を根底から覆す可能性があるとしています。中国では食用油の生産のために世界の6割近い大豆を輸入しています。日本の輸入量はその十分の一にも満たないという状況です。遺伝子組み換え大豆を嫌う日本向けの大豆は、手がかかり、10年後には豆腐1丁が５００円くらいになるかもしれないという悲観的な予測も紹介されていました。

しかし、日本農業にも強みはあります。「安全・安心」にこだわった栽培や品種改良技術などの「日本の農力」はこれからのビジネスチャンスにもつながるはずとしています。

どう生かす日本の農業力

一方日本の農業政策の問題点を指摘する厳しい意見も紹介されていました。経済学者の伊藤元重氏は「農業の生産性を高めるには競争が必要だ」と指摘します。また経済同友会副代表幹事数土文夫氏（ＪＦＥホールディングス相談役）は日本の農業の課題として3点を挙げています。

まず、農業政策が当事者だけの話し合いで消費者の視点が無い。次に効率性が低いこと。最後は貿易自由化への何の対応もしていない。いずれも厳しい意見です。

氏は説明の中で「日本の農業総産出額8兆5千億円に対して、国や自治体からの税金投入額は4兆6千億円（経済同友会推計）にのぼる。他の産業には無い異例の保護政策」としていますが、「将来の食料事情を考えると、増産に対応できるよう農地の整備を怠ってはならない。」と重要な提言もしています。

チームワークで掴んだ準優勝

試合の後全員で「ピース」（左端の選手の手にドッジビー）



子ども会球技大会は「ドッジビー」という競技で行われました。これはドッジボールのボールの代わりに柔らかい円盤を投げあって行うものです。

2年続けて八方原・森下連合チームは優勝しましたので、他のチームから「打倒八方原」を合い言葉に作戦を練り上げていました。

迎え撃つ「八方原・森下連合チーム」は上級生が卒業してしまい2・3・4年生のチーム編成。しかし、子ども会会長の山本さんや、田良さんの毎朝の指導でめきめき力をつけ、大会では上級生中心のチームを次々に撃破。最後の決勝戦では柏崎・新開・原連合チームに敗れたものの、準優勝と大善戦しました。

選手のみなさん、指導者の方々、ご苦労様でした。そしてなによりおめでとうございます。

子どもたちの笑顔でいっぱい

八方原ふれあい盆踊り

今年の夏は暑いですね。35℃を越す猛暑日が当たり前のようになってきました。暑い夏を吹き飛ばす平成22年度八方原ふれあい盆踊りが8月7日行われました。

今年は慰霊の意味合いも込めて「黙祷」を取り入れました。先人への敬意と感謝を込めたつもりです。

踊りの輪もしっかり広がり、楽しい盆踊りになりました。テレビなどの報道によりますと、東京都心では盆踊りが次第に盛んになってきて、地域外からの参加者も多いそうですね。なかには踊りのグループを組んで、行けるところには必ず踊りにいくという団体もあるようです。踊り手が少ない会場では大歓迎とか、いろいろなスタイルがあるものです。



花火は子どもたちに大人気

今回の大会開催には地域の方々の様々なご協力がありました。また地域内外からの多額のご寄附もいただきました。あらためて御礼申し上げます。



親子で花火だ、楽しいな

同日一度に

通学路の草刈り リサイクル活動

八方原子ども会

子ども会では毎年夏休みに「廃品回収」、今風にいうと「リサイクル活動」を行っています。8月21日の午前8時から各家々を回って、空き缶や古新聞などを回収しました。

同じ日の7時からは、通学路の草刈りを地区ＰＴＡが行っていました。「同じやるのなら一度に済ましてしまおう」という作戦です。

みなさん、お疲れさまでした。



軽トラックの荷台はすぐにいっぱいになる

3月までは路線バス運行

路線バスの八方原地内乗り入れ路線について、市の公共交通担当から連絡がありました。それによりますと、来年3月までは今まで通り運行することになったようです。

当初10月の廃止も言われていました。また4月以降の予定についても、確定ではないということのようです。これからの利用状況が今後の方針に左右するようです。

残念ながら、利用しにくいという方も少なくありませんが、せめてバス路線くらい残したいですね。